

提言

日野原重明氏に国民栄誉賞を
「人生100年構想」で天寿を全う
本誌主幹 大中吉一

平成30年がスタートした。そして、新年早々の1月5日、将棋界の羽生善治竜王（47）、そして囲碁界の井山裕太九段（28）が、国民栄誉賞を同時授与という素晴らしいニュースが飛び込んだ。国民に感動を与え続けるご両人には賛辞を惜しまない。

ただ、一つ残念でならないことがある。それは昨年7月、105歳の天寿を全うされた聖路加国際病院の名誉院長・日野原重明先生に、国民栄誉賞を授与すべきではなかったのか、ということである。第1次、第2次両大戦を経験し、1923（大正12）年の関東大震災、1970（昭和45）年の「よど号」ハイジャック事件など数々の大事件に遭遇、1995（平成7）年の地下鉄サリン事件では、負傷者を病院の廊下にまで収容、現場で手当ての陣頭指揮を振るわれた。常に患者に寄り添い、生涯現役を貫き、そして「人生100年」を自ら実践して見せた『英雄』である。

翻って、安倍政権は昨年から「人生100年時代構想」を強調し始めている。現在我が国における100歳以上の人口は約6万6000人で、あと数年後には10万人を突破し、2030年には20万人に達するとも言われている。1世紀を生き抜いた人々が生き生きと暮らせる社会を作るのが、内閣総理大臣の最大の務めである。

一方、年頭の記者会見で安倍首相は、「働き方改革に挑戦します」というスローガンを打ち出した。2012年に現在の第2次安倍内閣がスタートして今年で足かけ7年。その間安倍首相は新年の挨拶としてさまざまな『美辞麗句』を掲げて来たのは周知のとおりである。「美しい国日本」を皮切りに、「3本の矢」、「新3本の矢」「アベノミクス」「1億総活躍社会」「仕事人内閣」云々……。

しかし、これらのスローガンは果たして貫徹されたのだろうか。私にはどうしても、コミットメントのない、「できるだけ頑張りましょう」程度の「プログラム規程」に思えてならない。

とりわけ、昨年8月の第3次安倍再々改造内閣で放った「仕事人内閣」に至っては、冒頭解散という荒業を行なった結果、閣僚はほとんど何の働きもないまま衆院選挙に突入した。

結果的に自民党は圧勝をもぎ取り、あたかも国民の大多数から支持を得たかのように見えるのだが、有権者が積極的に安倍政権を支持したわけではないことは、マスコミ各社の世論調査からも明らかだろう。単に野党のだらしなさ、「オウンゴール」で得点しただけという真実を、自民党の代議士は改めて肝に銘じるべきだろう。

北朝鮮の核・ミサイル問題を筆頭に、予断を許さない米トランプ政権やさじ加減の難しい日中、日ロ、日韓関係、EU問題など、日本を取り巻く国際情勢は2018年も不確実性を益々加速しそうな雲行きである。

理想論や希望論に終わらせることなく、足元を固めて、国の安心・安全・安泰を確保することに、まずは注力することを願うばかりである。

KōRON